

13  
3223  
51







為永春水作  
大傳九編  
一勇斎園芳色

吉加永三枝水板

九世阿千

九世阿千



へ13特  
3223  
57

一筋の長き玉の  
あまのまね作



夫長きりの短き成る大なるを小と兼ぬまゝのくつし長き  
 世小長考の橋の長きと君う齡ひを長濱の鶴の千歳  
 るまど長き成るる詞めて山鳥の尾の長きさるる南極星の  
 天窓の長き吸付葎の長烟管杓の返辞と樋竹賣是等  
 八多の長き成りとも別て女中の長裾ひいて駒下駄の踵  
 をうち角前髪の長振袖はるびいて柳の風次女をとくへ小の  
 潮来の字ありふしそちりさんど長文句ゆづれ當世小の  
 の松長よ栄へゆ是も余沢と僕が長編よ筆を採り  
 才小延ま死と鼻の下谷の草薺小春の長き日あぐく  
 かまも看官の長き咲ひよそるへふあのみ

嘉永二酉仲春稿成  
 同 三戌子孟春新鵞







延虫崎

延虫崎

延虫崎



伏姫  
神靈

大江親

仁衛兵











Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.



Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a concluding note.

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, above the illustration.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, below the illustration.

Vertical text on the far right edge of the right page, possibly a page number or a reference.







かゝるに... 女房の... 戸口... 大... 廿一...

かゝるに... 女房の... 戸口... 大... 廿一...



ゆづり... 人の... 戸山... 色...



かゝるに... 女房の... 戸口... 大... 廿一...





























山崎の...  
大田の...

19



土郎...  
大田...

20











この二人を  
 公方の大田山  
 は因心あり  
 世のそと  
 るんとの  
 飲下り  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

とちの  
 るんとの  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

その  
 るんとの  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

その  
 るんとの  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

その  
 るんとの  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

その  
 るんとの  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

その  
 るんとの  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

その  
 るんとの  
 む小の文と小ひ  
 まめそのおとを  
 手と又多ま  
 へ多主大平ありて  
 是ゆそのの  
 おまの年か  
 せこのの  
 中よあ  
 ちのの  
 る人  
 ちの  
 川  
 小  
 くの  
 どの  
 なる

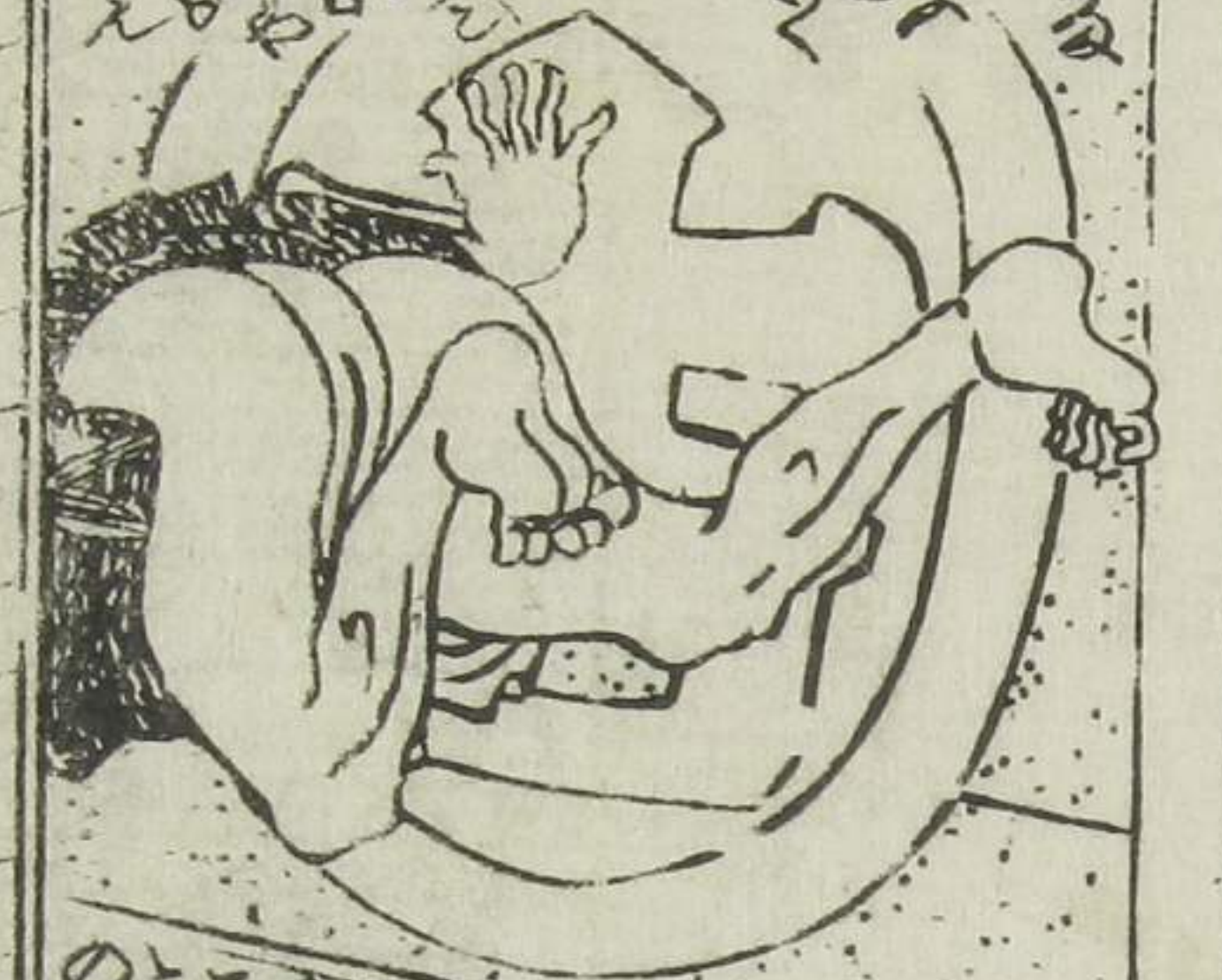








大田のや子  
さしやせ



あつちを  
あつちを  
あつちを

大田のや子

あつちを  
あつちを  
あつちを



あつちを  
あつちを  
あつちを



あつちを

あつちを



三入はしくわの...  
大川...  
将軍...  
その他...



大川...  
将軍...  
その他...  
あつた...  
あつた...  
あつた...

つぎ...  
市川...  
あつた...  
あつた...  
あつた...

あつた...  
あつた...  
あつた...  
あつた...  
あつた...



あつた...  
あつた...  
あつた...  
あつた...  
あつた...

# お那屋

大川...

あつた...









善水作  
八丈十編  
國芳画

十篇上

十編下

寛政三庚戌春正月

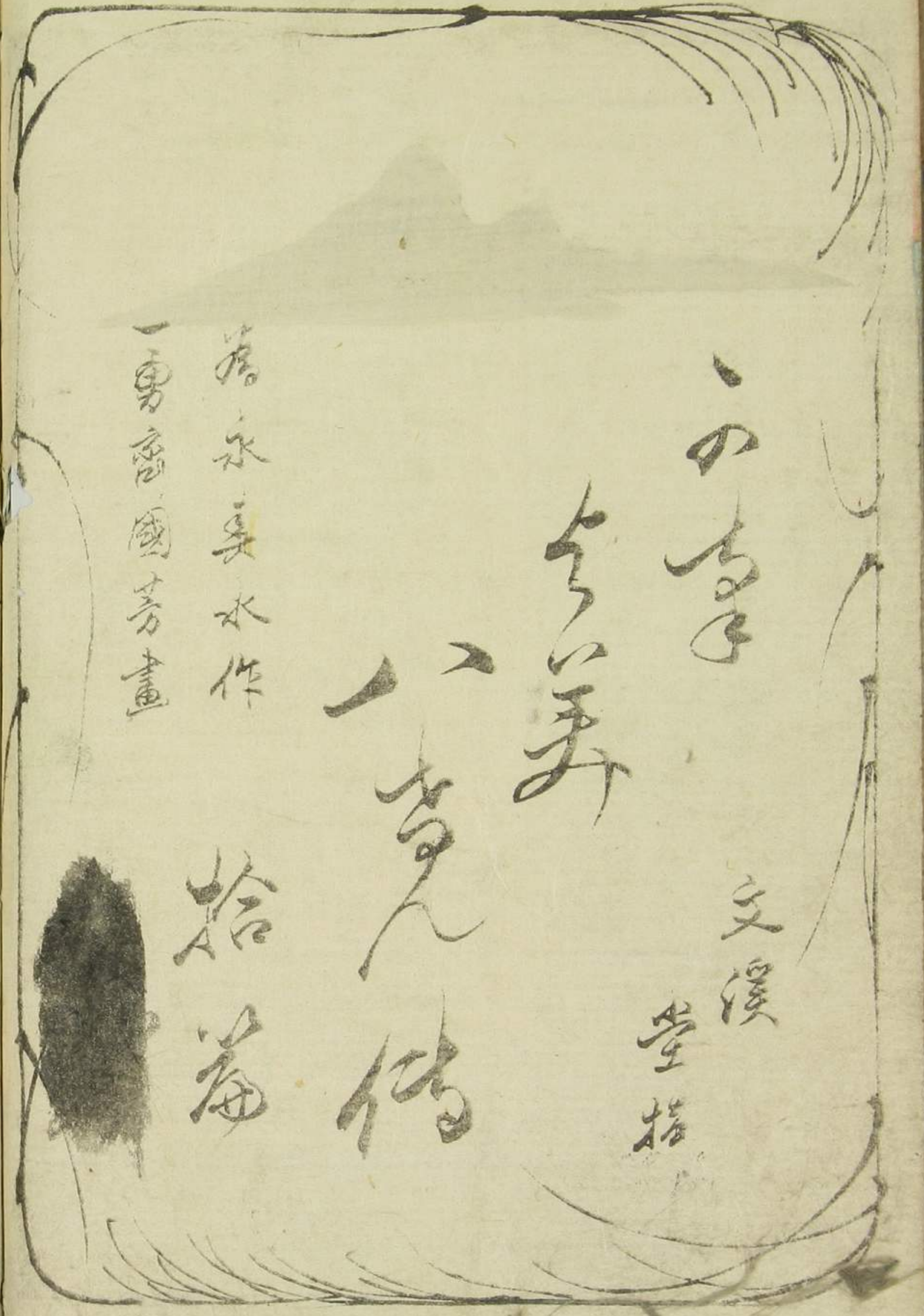




硯は海成  
 田地と云  
 筆と墨と成  
 鍾鏝り  
 一日毎に  
 毎に

〆 種もも根う飛騰の作男去来の  
 〆 美つら仕残しは未進をせうあやと後ら  
 〆 ねを解りはえは酒息を顔も青田とある  
 〆 穂葉戦きを種金の青官よふまにさすや  
 〆 穂の穂見せまこと言らるゝ山子のちり引よむれ山田の  
 〆 畔の水車とまのりゆの筆を板を書し綴り合せの爰が十編  
 〆 世を一期栄へるは米のそとをさすまのりゆの先此輯と  
 〆 編に南州とまのりゆの作若く為の骨正月とも思ふんじ  
 嘉永三歳  
 戊孟春幾販  
 為米春水誌焉

天壽一編



八の字

八の字

八の字

為永春水作

一勇齋國方畫

拾遺

文溪

筆指



八十一冊



單節ひとひし

十條とじょう  
尺八郎しゃちやう



十條とじょう

力二郎ちからにやう

曳手ひきで

八十一冊









































八代傳十糸

























大傳九  
 此の巻は...  
 大傳九  
 此の巻は...  
 大傳九  
 此の巻は...



大傳九  
 此の巻は...  
 大傳九  
 此の巻は...  
 大傳九  
 此の巻は...

大傳九  
 此の巻は...  
 大傳九  
 此の巻は...  
 大傳九  
 此の巻は...











為永喜の作  
 一勇斎國芳畫  
 八犬傳  
 十一篇  
 文溪堂





